

《単位互換提供科目詳細》

* 科目 No. 1115

科目概要記入欄

1. 開設大学名	広島経済大学		科目開講 キャンパス	本学			
2. 科目名	正式科目名	金融論Ⅱ 金融と日本経済			クラス名		
	副題				配当年次	2	
					受入学年	2年以上	
	旧科目名						
	学問分野	番号	23	名称	経済学		
	サテライトで開講される科目の科目群		A群	B群			
3. 担当教員名	福居 信幸・経済・教授						
4. 単位数	2単位		5. 開講学期	後期			
6. 開講期間 曜日・時間	2018年 9月 21日(金)～2019年 1月 18日(金) 金曜日 14:45～16:15						
個別開講日	1回目 9/21	2回目 9/28	3回目 10/5	4回目 10/12	5回目 10/19	6回目 10/26	
	7回目 11/2	8回目 11/9	9回目 11/16	10回目 11/30	11回目 12/7	12回目 12/14	
	13回目 12/21	14回目 1/11	15回目 1/18	16回目 /	試験日	/	
7. 基礎知識の有無	2. 「基礎知識を必要としない科目」						
8. 募集人数 (総授業定員)	制限なし (人)		9. 定員超過時の 選考方法	なし			

10. 科目内容・授業計画	<p>科目内容：金融論Ⅰの内容を踏まえて、家計、企業、政府の金融行動の理論と実態を学び、金融と経済全体の動きとの関係を理解します。また、資金循環表のしくみを学び、各経済主体の資金過不足がどのように融通されているか戦後からの推移を検証し、日本の金融構造の特色と変容を考察します。さらに、日本の平成バブル、世界金融危機、欧州債務危機の基礎的なメカニズムを学び、金融の機能不全がどのように実物経済に影響を与えるかを理解します。また、金融派生商品や証券化商品の内容を解説とともに、金融監督規制の重要性を学び、今後の金融システムのあるべき姿を展望します。毎回授業の最後に、当日の講義内容を踏まえた課題を課し、次の授業の冒頭で各自の回等傾向や回等例などを解説します。</p> <p>第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 家計の消費・貯蓄行動 第 3 回 家計の資産選択の理論と実際 第 4 回 企業の投資決定理論と資金調達方法 第 5 回 企業の資金調達の理論と実際 第 6 回 政府の国債発行と財政赤字 第 7 回 資金循環表のしくみ 第 8 回 中間まとめ 第 9 回 日本の金融構造の特色とその変容 第 10 回 平成バブルと金融システム危機 第 11 回 世界金融危機と欧州債務危機 第 12 回 金融機能の高度化～金融派生商品と証券化商品～ 第 13 回 金融監督規制 第 14 回 金融システムのあるべき将来像 第 15 回 後半まとめ</p>		
11. 試験・評価方法	<p>定期試験を実施します。 定期試験 60%、レポート 25%、受講態度等 15%として総合的に評価します。出席日数が3分の2に満たない場合は定期試験の受験を認めません。受講態度等は出席状況等で評価され、特に11回以上の出席は1回ごとに加点されます。さらに、毎回授業の最後に与えられる課題に対する優れた回答には加点がある一方、受講意欲が感じられない回答や受講態度が芳しくないとは判断される場合には減点があります。</p>		
12. 別途負担費用			
13. その他特記事項	<p>受講条件：金融論Ⅰを履修していることが望ましい。その他アドバイス：パワーポイント資料（講義スライド掲示分）は、講義終了後、Hueナビ「授業資料」に添付しておきますので活用して下さい。また、レポートの課題や提出要領など授業で説明したことで特に重要と思われる情報については、改めてHueナビに掲示しますので、各自Hueナビのチェックを励行して下さい。また、Q&A機能などHueナビの有効活用をお勧めします。</p>		
14. サテライト科目の社会人受講について	科目等履修生（単位付与）として受け入れ	可	否
	聴講生（単位認定不要）として受け入れ	可	否